地域の人とつながる農作業体験～JAL連携協力協定～

JALグループ社員が農作業を体験しました

美郷町とJALによる新たな交流事業が5月24日、25日に町内で行われました。この事業は農作業体験を通して「社員と町民=人と人」がつながることを目的としており、合計21名が参加しました。最終日の「振り返りワークショップ」ではJALグループ社員の方々が、田んぼの泥の冷たさや腰の痛みを体験し「地域で支え合ってお米を育てること」など2日間で学び感じたことを発表しました。

後世への伝承を願って

畑屋うさぎ剥製お披露目会を行いました

5月29日、美郷町歴史民俗資料館で畑屋うさぎ剥製お披露目会が行われました。剥製の制作は畑屋うさぎの生産者である髙橋清一さん（外川原）よりご協力いただきました。髙橋さんはお披露目会で「畑屋うさぎの飼育者が減っているため、町の宝として後世へ残していきたい」と話しました。剥製は引き続き同館へ展示しています。

田植えや定植作業を体験！

六郷高校の生徒が農業体験

六郷高校の生徒たちによる農業体験が5月29日に町内の都市農村交流推進協議会会員農家4戸で行われました。同校1年生38名が参加し、田植えのほか、花やブルーベリーの定植作業を行いました。▶P21

ヨネックス特別協力～包括連携協定～

美郷中学校バドミントン教室

6月7日、ヨネックス特別協力のもと美郷町総合体育館リリオスで美郷中学校バドミントン部を対象にバドミントン教室が開催されました。講師にはリオデジャネイロオリンピックで女子ダブルス金メダリストの髙橋礼華さんを迎えました。教室の最後には、郡市総体を間近に控えた部員たちから髙橋さんへ「試合前の緊張をどうしたらいいか」などの質問がありました。髙橋さんは生徒の質問を受け止め、自身の経験や心構えなどを丁寧にアドバイスしていました。

美郷の水を学び未来へつなぐ

七滝「水の森」植樹事業

6月19日、六郷東根地区の七滝山で「七滝『水の森』植樹事業」が行われ、町内各小学校の4年生や町議会議員、秋田県仙北地域振興局の職員など合わせて約200名が参加しました。

当日、児童らはお手本をよく見てから参加者の方々と協力し合い、ブナの苗木の施肥や植樹を行いました。

■六郷小学校

■仙南小学校

■千畑小学校

COLUMN WINDS

コラム風

第3の目

美郷町長 松田知己

私が手塚治虫先生の本格的なファンになったきっかけは、仙南中学生時代の学校主催で行われた廃品回収でした。当時仙南中学校では、社会貢献の一環として年一回、中学生が集落を回って廃品回収をしておりました。その中には雑誌類も含まれ、特に生徒の興味の的でした。普段は目にしない、いろんな種類の雑誌があるからです。

私がその中で見つけたのが、手塚治虫先生の「火の鳥　鳳凰編」。その場で一気に読んだことを記憶しております。もちろん手塚治虫先生のことは「鉄腕アトム」や「どろろ」、「ブラックジャック」などで知っていましたが、深い内容の作品はそれが初めてで、以降、本格的な手塚ファンになった次第です。

手塚作品には印象的な作品が数多くありますが、「三つ目がとおる」もその一つ。三つ目族の末裔が絆創膏で第3の目を閉ざして普段の生活を送っているものの、絆創膏を取って第3の目が機能すると、超能力や明晰な頭脳が働いて事件を解決するというもの。当時は「自分も第3の目が欲しいなあ」と、非現実的なことを考えたものです。

さて、現代に「第3の目があるかないか」と問われれば、私は「ある」と答えたいと思います。超能力はさすがに無理ですが、自身の2つの目以外に状況を察知して対処を考えられる目があるからです。具体的には遠隔カメラや防犯カメラですが、まさに第3の目として機能しています。町では熊騒動を踏まえて、遠隔カメラを準備して人里に近い山林に設置、熊をはじめ野生動物の動向をチェックしているほか、防犯カメラも認定こども園と小中学校に設置し、敷地内外の動向を把握できるようにしております。

こうした第3の目ですが、現在の社会環境を踏まえますと、残念ながら農村部でも必要性を感じるようになってきております。そのため町では、家庭用防犯カメラの設置に補助金を準備いたしました。不安で第3の目が欲しいと考えているご家庭では、どうぞ活用をご検討ください。詳しくは本広報内（▼P14）に概要を掲載しておりますので、ご覧ください。なお、財源の関係で本年度限りの補助金となります。

かつての朝の連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」。尾上菊之助（当時）が演ずる黍之丞（きびのじょう）が言う名セリフ、「暗闇でしか見えぬものがある」をまねるならば、「第3の目でしか見えぬものがある」でしょうか。

▲「七滝『水の森』事業」であいさつをする松田町長